



成美っ子

学校だより 令和7年度No.12

粘り強く、考え続ける

5年担任 齋藤 郁子

梨木香歩さんの小説『西の魔女が死んだ』の中で、少女が祖母に「人の力は最初から決まっているのか」と問いかける場面があります。それに対して祖母は、努力や向き合い方次第で人は変わっていけること、才能だけでなく、諦めずに続ける力が人の成長を支えていくのだと語ります。この場面が、最近の子供たちの学習の様子と重なって思い出されました。

算数科では「割合」の学習に取り組みました。割合は、「何をもとにして比べているのか」を問題文から読み取り、考えなければならない単元で、5年生が学ぶ内容の中でも難しさを感じやすい学習です。初めは「もとにする量」と「比べられる量」の違いが分からず、すぐに答えにたどりつけない子も多くいました。

そこで、この単元では、子供たちが自分に合った学び方を選べるようにしました。一人で静かに考え続ける子、ノートを交換して友達と意見を確かめ合う子、ホワイトボードに考えを書きながら友達に説明する子。それぞれが行き詰まりながらも、問題を解く方法を変え、立ち止まり、また課題に向き合う姿が見られるようになってきました。

これまで取り組み始めるまでに時間がかかっていた子も、友達に考え方の手がかりを聞いたり、一緒に考えたりする中で、少しずつ問題に向き合う時間が長くなっていきました。ある日のノートの振り返りには、「今日は友達が教えに来てくれたけど、一人でしたかったから断った。ギリギリ一人でできた。めっちゃ難しかったけどできた。嬉しすぎる。今度も一人で頑張りたい。」と書かれていました。この言葉から、その子が自分の力でやり抜いた実感を得ていることが伝わってきました。

『西の魔女が死んだ』の中で、主人公の少女は、特別な出来事をきっかけに成長していくのではなく、うまくいかない日々を重ねながら、自分で決め、やり遂げた経験を通して、少しずつ自分の力を信じられるようになっていきます。教室で見られる子供たちの姿も、そうした少女の歩みと重なるように感じます。答えがすぐ見付からなくても、考え続け、何度も課題に向き直る中で、子供たちは粘り強く取り組む力や、最後までやり抜く力を少しずつ身に付けているように思います。結果だけでなく、考える過程そのものに価値があることを、子供たちは学び始めています。



〈ホワイトボードを使って学び合う子供たち〉

1時間の授業に限らず、これから先、思うようにいかない場面はたくさんあります。そんな時に、投げ出さず、もう一度課題に向かおうとする力を大切にしてほしいと思います。

5年生としての学校生活も残りわずかとなりました。一人一人の主体性を尊重しながら、子供たちの成長を見守っていきたいと思います。